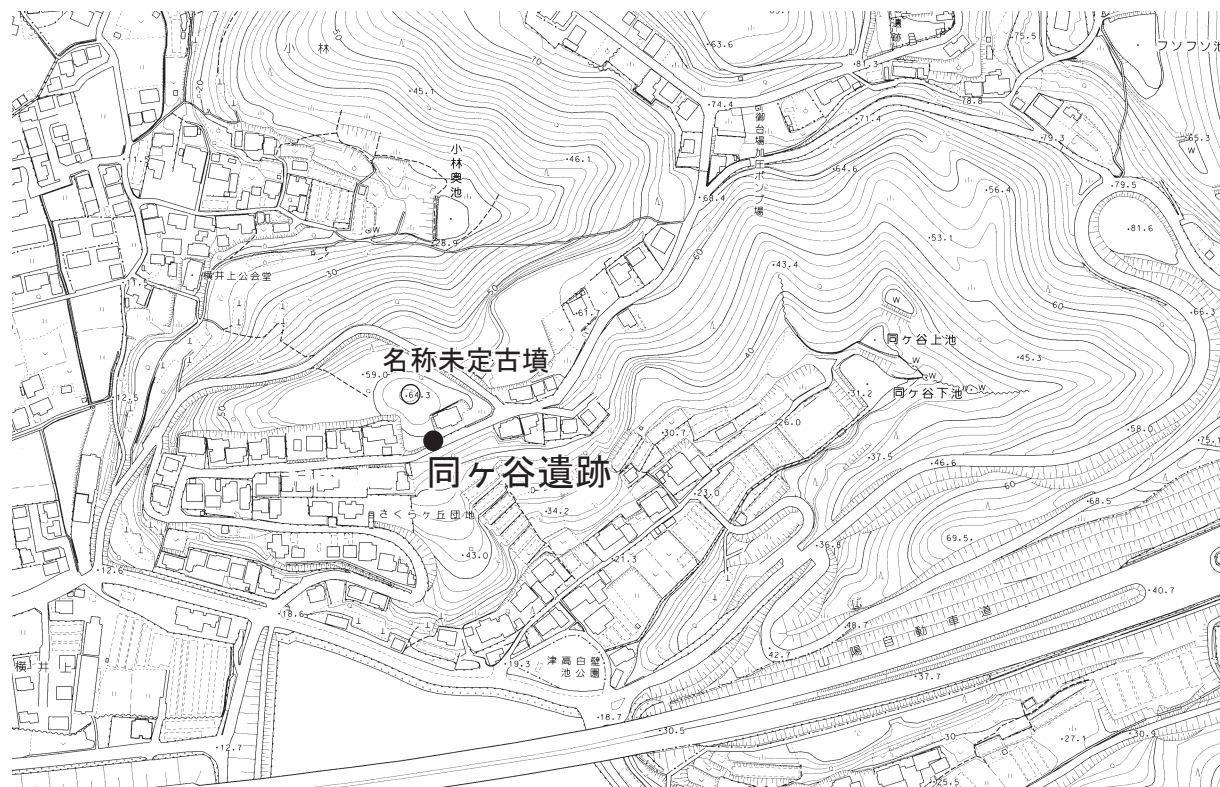


同ヶ谷遺跡

寒川 史也

【遺跡の位置】



S=1/5,000

【遺跡の概要】

同ヶ谷遺跡は、岡山市北区横井上に所在する。遺跡は笹ヶ瀬川の東岸、笠井山から西にのびる丘陵に立地し、市道の拡幅のため工事が実施されていた。平成22年(2010)の7月に、数日間の降雨の影響で円筒埴輪棺の上面が露出したことにより発見に至った。埴輪棺は、穴を掘ってその下部に礫をコの字形に配置し、砂を敷いた上にのせられていた。棺自体は3つの円筒埴輪を入れ子状にし、両側は別の円筒埴輪を分割したもので閉塞されていた。また棺を形づくる埴輪には、畿内中枢部で埴輪づくりに関与した可能性が高い製作技法の痕跡が残されていた。地域間の交流を如実に示す資料として挙げられる。

遺跡は古墳時代において中期古墳の築造が希薄と考えられていた津高地区の歴史を語る上で重要な発見となった。加えて、埴輪棺発見地点から約30m離れた丘陵頂部に径15mの円墳が分布しており、周辺で埴輪棺と時期とみられる5世紀の埴輪片が採集された。両者の関係性が注目される。

【文献】

岡山市教育委員会 2013『同ヶ谷遺跡—集中豪雨に係る円筒埴輪棺の緊急保護調査—』

寒川 史也 2022「北区横井上において採集された埴輪資料の紹介」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第14号

【交通】

岡電バス小林口下車 徒歩15分

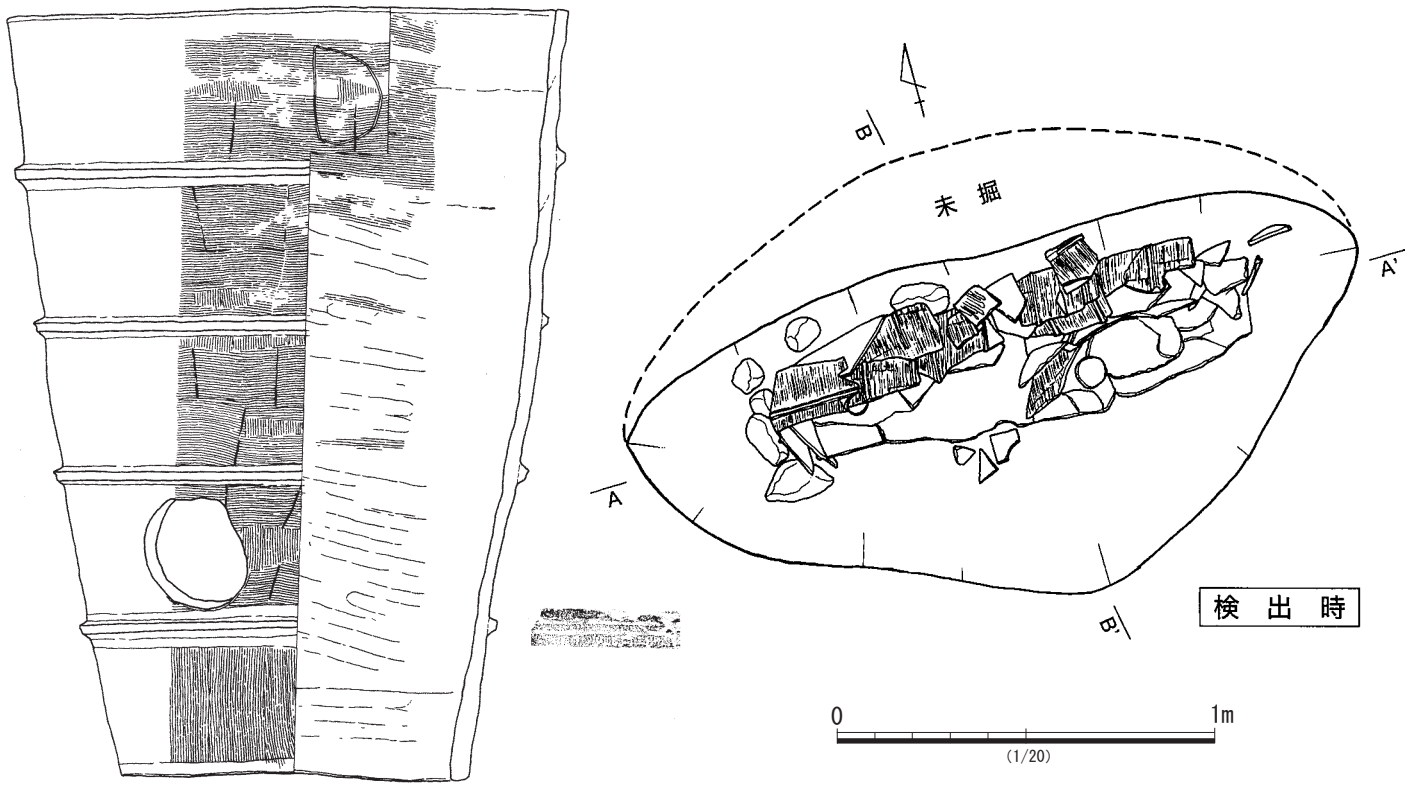


图1 3号棺 (S=1/6) と円筒埴輪棺平面図 (S=1/20)

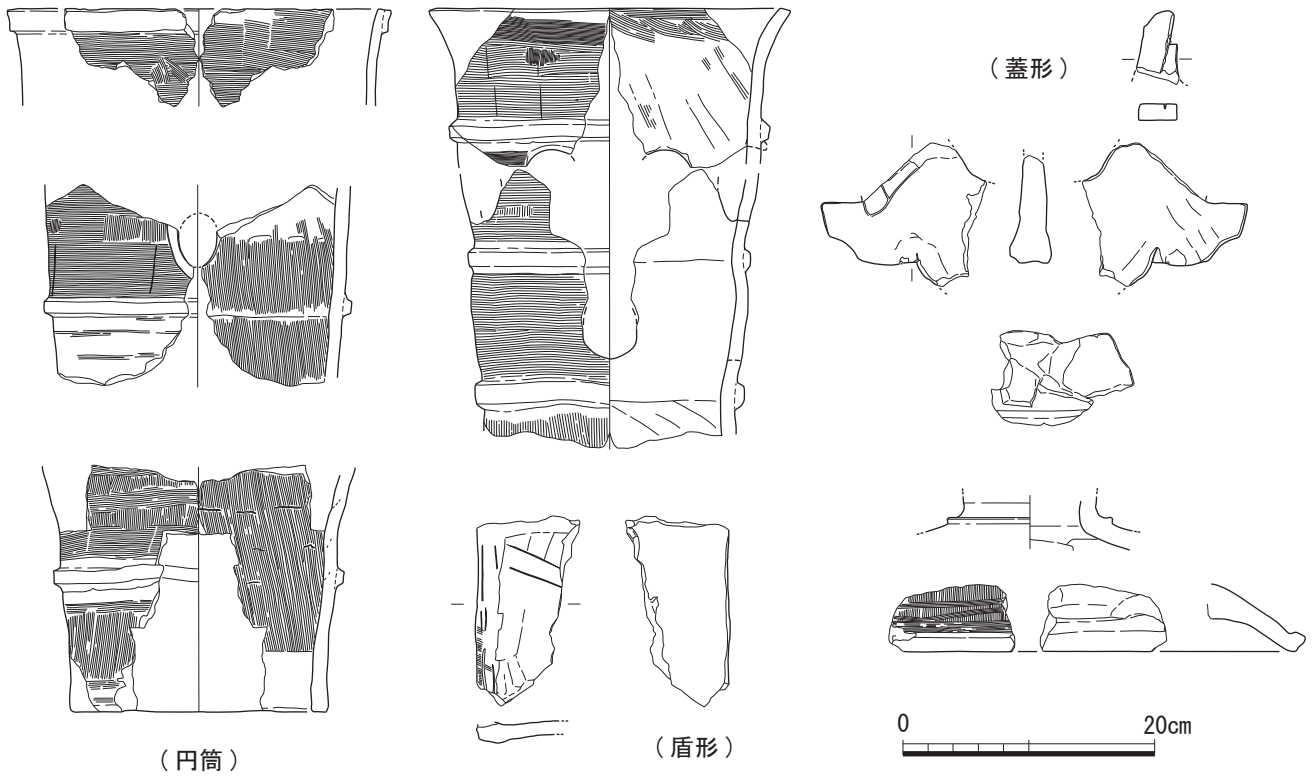


图2 周辺古墳採集埴輪 (S=1/6)